

『新春序曲「2024」』 寸評

- ・和太鼓で景気よく幕を開ける新春
- ・サッパリとバランスのとれた編成
- ・太鼓とトランペットの対話にオリジナルな感性がみられる
- ・太鼓だけの m.4 にとりわけ邦楽らしさをおぼえる
- ・長さからいって序曲よりもファンファーレが適当だらふ

完成度をさらに上げるために

- ・ [←グループ括弧は不要

・ **Allerro** → **Allegro**

・ m.13 *cresec.* → *cresc.*

・ m.2, 6, 12 大太鼓 

アーティキュレーションで処理するとリズム構造がわかりやすい

・リズムパターンからいって m.8 からは b.2- 次の小節b.1の4拍で音楽が進行する



・各4小節ごとにさいごの協和音を妥結点として内声もよくしゃべっており
和声的・対位的のどちらともつかないうごきに現代の割り切れぬ混迷の
表象をみてとる

・ m.9 b.1-2 Tp. II, III m.1



各パート同音で処理してもよいかも

・大太鼓にもぜひこまかなディナーミクを←表現力のきわめて大きな楽器
むしろ、和太鼓を指定してもいいのでは

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

ハイブリッドな音楽性の魅力がよく出てます。

特魔勉